

高井戸東遺跡出土の旧石器



〔指定年月日〕平成四年一月一日  
 平成二四年二月二三日 追加指定  
 〔種別〕有形文化財(考古資料)  
 〔名称〕高井戸東遺跡出土の旧石器  
 〔点数〕二〇四〇点  
 〔所有者等〕杉並区教育委員会  
 〔所在地等〕大宮一―二〇―八(郷土博物館内)

### 高井戸東遺跡出土の旧石器

高井戸東遺跡は、神田川左岸に立地する旧石器時代を中心とした遺跡で、過去、九次にわたる発掘調査が実施されている。この内、第一次～第五次調査で出土した旧石器一七八点は、平成四年（一九九二）に、第六次・第九次調査で出土した旧石器二六一点と、第X層出土の炭化材一点は平成二四年（二〇一三）に有形文化財（考古資料）として指定されている。

石器群は、旧石器時代最古段階の立川ローム第X層から旧石器時代終末期頃の立川ローム第III層に至る各層から出土している。特に、最古段階である第IV層から第X層で出土した局部磨製石斧を含む石器群は、その形態・製作技法等から東南アジア・シベリアの石器群と対比される資料である。また、第六次調査では、区内では希少な鉄石英を素材とする石器群がまとまって出土している。鉄石英は鬼怒川上流域で採取可能な石材で、遠隔地からもたらされた石材として注目される。

炭化材は長径二〇〇mm・短径一六〇mm・高さ五五mmを測る塊状の炭化材で、樹種はマツ科トウヒ属とされる。ローム層中で出土する炭化材は、通常、一～五mm程度の微小なもので、隔絶した大きさの資料といえる。炭化材の出土層位は立川ローム第X層で、放射性炭素年代測定によって32,000±170BPという年代値が得られている。武蔵野台地最古段階の石器文化の理化学年代の根拠となる実資料として重要である。

本資料群は当該期、とりわけ武蔵野台地最古段階の旧石器時代の歴史を語る上で重要なものである。

【文化財所在地】

